

国立市教育委員会  
教育長 雨宮 和人 様

国立市立国立第六小学校  
P T A 会長 亀山 晴路

### 施設設備などに関する要望書

貴教育委員会におかれましては、平素より児童たちの教育環境の改善及び向上にご尽力いただきありがとうございます。また、施設設備等の不具合に際し、迅速なご対応をいただき心より感謝申し上げます。

国立第六小学校においては、学校とP T Aにより施設設備等に関し、改善を要する箇所について協議いたしました。その中で、市が提唱する南部地域の農の風景に合致するかなのような六小の自然豊かな環境に着眼するとともに、東京都内でも極めて珍しい校内敷地に川が流れ、児童生徒の学習等に用いられている「学校敷地内の矢川に係る環境整備」についての要望を検討いたしました。

児童生徒の教育環境のより一層の充実や安全確保のために、下記要望についてご検討くださいますようお願いいたします。

#### 記

##### 1 経緯

国立第六小学校においては、右図の赤枠に示すとおり、学校の敷地内に矢川が流れており、その恵まれた自然環境を生かし、常日頃から全学年の児童生徒が矢川に親しむとともに、様々な学びの場として用いられてきた経緯があります。

ただし、近年は在来種の樹木の成長に加え、外来種の草木の繁茂も著しく、整備が行き届かないことで雑木林と化してしまっています。



##### 2 現状

学校が管理する敷地内であり、用務職員の方のご尽力により草刈りを実施するものの、他の業務との兼ね合いや人手不足も相まって整備が困難

外来種の「キショウブ」等の大量繁茂により、在来種で準絶滅危惧種の「みくり」等が脅かされるだけでなく、ビオトープ（3箇所）が外来種に覆われて鬱蒼と風通しも悪くなるため、蚊の温床となり人にも生き物にも好ましくなく、学びの場として使い難い状況になってしまっています。



##### 3 問題点

国立市内ばかりか、東京都内でも極めて珍しい学校が管理する敷地内に川が流れる希少な環境であり、そのために特殊な管理が必要となる状況において、現状では維持管理を担保するための枠組みは設定されていません。

学校敷地内の矢川は、経緯にも記したよう、古くはカワニナを育て蛭を鑑賞したり、ビオトープで水田の体験学習を、現在でも全学年が「生き物」や「環境について」の学びの場として通年で関わっています。

子育て環境の変化や少子高齢化が進む中、これまでのように地域住民や保護者のボランティアのみに依

存して「学校敷地内の矢川に係る環境整備」を維持管理していくには限界もあり、非常に貴重な学びの場としての意義を失いかねないと危惧しています。

#### 4 改善策

令和7年度は、国立第六小学校は創立55周年を迎えることもあるため、学校の施設設備としての「学校敷地内の矢川に係る環境整備」を要望し、市の予算を充当して頂くことで、外部業者やシルバー人材センター等のマンパワーサポートを得て、今後も希少な学びの場を維持管理していく枠組みを構築したいと考えます。

(右写真：第2項「現状」で示した写真の場所をPTAイベントとして「桜守の会」や「動物調査会」等の協力を得て整備後の写真)



#### 5 要望事項

##### (1) 【令和7年度単年度要望】遊歩道等の整備について

学校敷地内の矢川周辺の整備は、30年ほど前に市によって成されたものであり、矢川護岸、遊歩道、階段、柵、ビオトープ止水弁、学校と結ぶ橋等の構造物が設置されています。経年劣化している箇所もあるため、業者による確認・補修等を要望します。

##### (2) 【毎年度要望】ビオトープの再生について

ビオトープについては、現状は水中に外来種の「キシノウブ」や「セイタカアワダチソウ」の根が張り巡らされ、素人による手作業では取り除けない状況となっています。在来種の「みくり」等を残し、業者による除去を要望します。

##### (3) 【毎年度要望】草刈りについて

前述のとおり、全学年が通年で学びの場として活用しているため、四半期毎の年4回程度を標準とした考えのもと、1/四半期：1回、2/四半期：2回、3/四半期：1回（4/四半期は草が生えないので、その分を2/四半期に充当）というような頻度で、専門業者若しくはシルバー人材センター等による草刈りを要望します。

※ 上記要望事項3件の詳細については、教育委員会での検討結果に応じて改めて相談させて頂きたく存じ上げます。宜しく願い申し上げます。

#### 6 提 案

近隣の小学校の児童生徒にとっても国立市の生き物、植物、環境、地形、ひいては災害対策、地球温暖化を考える等、広く活用できる学びの場として、有効な場であることから様々なことを学ぶ場として提供していけるのではないかと考えます。

子どもたちにとって身近でリアルでありながら安心して学ぶことができる最高の環境を得る機会としても提案いたします。